

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 28 日現在

機関番号：17102

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26370020

研究課題名(和文) 伝アリストテレス作『大道德学』のギリシア語テキストの研究

研究課題名(英文) A Study on the Greek texts of the supposedly Aristotelian "Magna Moralia"

研究代表者

新島 龍美(Niijima, Tatsumi)

九州大学・比較社会文化研究院・准教授

研究者番号：50172606

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,900,000円

研究成果の概要(和文)： 従来アリストテレスの作品として伝えられてきた『大道德学』(Magna Moralia)のギリシア語テキストに関する研究を行った。通常底本として用いられるF. Susemihl校訂のTeubner版を吟味し、誤植やギリシア語写本の読みの誤報告からテキスト各所で採用された読み方の検討に至るまで詳細な検討を行った。

更にその検討結果を踏まえて、『大道德学』の翻訳を行い、併せて解説を付し、岩波書店より、アリストテレス全集の一巻として刊行した。

研究成果の概要(英文)： In this project I studied on the Greek texts of the supposedly Aristotelian "Magna Moralia". I examined the Greek texts of Teubner edition made by Franz Susemihl, which is commonly thought to be the most authentic text of "Magna Moralia". Through this examination, I indicated several defects of his text, from many misprints, misinformations of Greek readings to misjudgments of the selected readings.

I made a new revision of Greek text of "Magna Moralia", and translated it into Japanese with commentaries, and published the Japanese translation from Iwanami Syoten Publisher, as one volume of the Japanese Translation of Aristotelian whole works.

研究分野：哲学

キーワード：アリストテレス 『大道德学』 ギリシア語テキスト

1. 研究開始当初の背景

本研究が対象とした、アリストテレス作と伝えられる『大徳学』への関心は、従来は主にその真偽問題 果たしてアリストテレスの真作か否か に焦点が置かれてきたが、テキストをめぐる研究も無視されていたわけではない。SussemihlによるTeubner版の刊行 (1883年)以来、Jaeger, von Arnim, Armstrong, Stock, Kassel, Donini, Dirlmeier, Becchi, Kennyといった人びとによって、テキストの読みについて様々な提案がなされてきた。また現在では、Sussemihl以前になされていたが彼には知られていなかった修正の提案についての知見を手にもすることも出来る。

Weit Amerbach (1503--1557) や Nicasius Ellebodius (c. 1535--1577) はその一例であり、彼らには新たなテキスト校訂への貴重な貢献が期待される。その著者が誰であったかの問題がどう答えられるにせよ、『大徳学』がアリストテレス研究にとって重要な作品であることは動かない。なぜなら、

(1)仮にもしそれがアリストテレスの真作であるとすれば、恐らくこの作品は彼の倫理的思考の最も初期の形態を示すものと考えられ、彼の倫理学の展開の出発点という指標を提供するものとなる。

(2)真作ではあるが第三者の手が入ったものであるとするならば、その取り扱いに相応の注意が必要にはなるが、アリストテレス研究にとってその重要性は依然否定できない。

(3)この作品がアリストテレス以後のペリパトス派に属する人物の手になるとするならば、その中には、アリストテレス倫理学の解明に資するものが見出されるだけでなく、アリストテレスに対する興味深い批判を含め、アリストテレス的倫理学の展開の一局面を見ることが出来よう。それは、同時代人によるアリストテレス哲学の取り扱い方を研究する上で重要な資料を提供するものとなる。

2. 研究の目的

19世紀後半以後の研究は、その殆どが、SussemihlによるTeubner版を底本として用いている。Corpus Aristotelicumの最初の印刷刊本であるAldus版第5巻(1498年刊)以来19世紀の後半までに刊行された10種類ほどのアリストテレス全集本に収められた『大徳学』のテキストに比べて、Sussemihlの校訂が優れたものであることは、間違いない。例えば、(a)新たな写本 (P2=Parisiensis Coislinianus 161)の導入など、手写本(マニユスクリプト)についてのより十全な知識、(b)先行する刊本(Bussemaker編纂)がそれより以前の刊本(Bekker編纂)から無造作に引き継いだ誤りの訂正、(c)テキスト校訂上諸家(Scaliger, Breier, Bonitz, Brandis, Rasso, Ramsauer, Rieckher, Chandler, Spengelなど)による推測(conjectures)の導入、(d)テキストの読みと文章の区切り方(punctuation)に関するSussemihl自身の推測と提案などの点で、彼の校訂がもたらした貢献は確かに大きなものである。しかし、その一方で、そこには少なからず問題も含まれている。その幾つかを挙げるならば、

先行研究を手掛かりに現在までに応募者が確認したところでは、100箇所近くの誤植や印刷ミスの類が見出される。

諸写本(Kb, Pb, P2)や印刷諸刊本が採っている読み方の報告、並びに、先行研究による推測の報告に関する誤りや報告洩れが少なくない。逆に、Sussemihlのテキストの異読欄(apparatus criticus)では後人による推測として表記されているもの、或いは、彼以後に推測された読み方の中には、写本の検討によって、より古い起源を持つことが判明するものも数十カ所にのぼると見られる。

彼が採用したテキストには、写本の裏付けを欠き、後代の推測にのみ基づくもので、しかもその旨を明記していない箇所が存在する。

「最古の写本が最善の写本」という19世紀のテキスト校訂作業に共通に見られる誤っ

た前提に由来する、伝存写本間の重要性の評価に問題がある。写本自体がより古いからといって、そこに書かれているテキストの読みがより古い 従って、よりオリジナルに近い とは限らない。より重要なのは写本の派生関係や系統関係である。Susemihlが最も重視したKb写本は現在までの研究によっても『大道德学』の現存写本の中で最も古いものとされ、重要な写本であることは間違いない。しかし、それが、彼が想定したように、最善の写本であるかどうかは疑問であり、それと同等に或いはそれ以上に重要な写本が存在する。

この点とも関連するが、Susemihlは、幾つかの重要写本（A写本、L写本、V写本）についての知識を有していなかった。

Susemihlが実際にテキスト校訂に用いているPb写本の校合は、テキストが進むにつれて正確さを欠いている。

P2写本がKb写本と同じfamilyに属するかどうかについても疑念がある。

これらの点に鑑みるならば、『大道德学』のテキストについての新たな研究の必要性が首肯されよう。

3. 研究の方法

本研究は三年間の計画で行われた。先ず平成26年度には、「研究目的」の項で挙げた六つの写本群の各々の先頭に位置する写本について、収集、校合、校訂の作業を行った。次いで平成27年度には、そこで得られたデータに基づき、それらの写本群間の系統関係に関する理論的予測を行うと共に、各々の写本群に属する他の諸写本の収集、校合、校訂を行った。最後に、平成28年度には、二年間の知見を総合して一つの全体像に集約して、『大道德学』の新たな批判校訂本の作成に着手した。

4. 研究成果

本研究は、アリストテレスの作品として面

得られてきた『大道德学』について、現存するギリシア語写本を収集、校合し、新たな批判校訂本を作成することによって、アリストテレス倫理学の更なる研究の進展の基礎を提供する試みであった。アリストテレス著作集（Corpus Aristotelicum）に含まれる諸著作及びそれらに関するギリシア語註解を含む写本として、現在2,700を超えるものが報告されている。これらの写本の内、『大道德学』に関連する写本は43本、それに短い抜粋を含む2つの写本の存在が報告されている。これらの写本の内、研究助成を受けた三年間で調査が可能であったものについて、その基本情報の一部を抜粋する。

< Berlin > : Deutsche Staatsbibliothek Berlin

1. Berol. Ham. 41; 15世紀の第2四半期。

< Demetrios Sguropulos > 作成。< Bessarion > の手による幾つかの欄外註（Harlfinger）

|| Wartelle 327; Berlin, Bibliothéque Nationale, cod. 397 (Ham. 41). XV s. 188 fol. Chartaceus. In--4°. EN(1); EE lib. I (61); MM libri II (73); Pol. (87).; Corrections Annexe 180: 327 cod. 397 (Ham. 41). (ff. 61r-84r) MM. (non: EE et MM). (Dreizehnter). || *Aristoteles Graecus I* (以下 AGI): 15世紀の第2四半期。紙。高さ330mm×幅240mm。ff. III, 193. 罫線39行 (ff. 1--84)。透かし模様; 身幅の広い剣 (aehnlich Br. 6185 (Sion 1433--1434))。 (ff. 1--59v) EN. (ff. 61--84) MM (ff. 87--188) Pol. mit Scholien (= Exzerpte aus dem verlorenen Kommentar des Michael von Ephesos, vgl. Immisch, S. XVI--XXIV; ed. Immisch, S. 293--327). ; MMには幾つかの見出し語 (Lemmata) と訂正

2. Cant. U. L. Dd. 4. 16 (191); 1441年。

Nikolaos Sekundinos 作成 (Harlfinger, *Textgeschichte*, 416) || Wartelle 398; Cambridge University Library, cod. 191 (Dd. IV. 16). anno 1441. 327 fol. Chart. In--4°. VV cum comment. (6); de Caelo (16v°); EN fragm. ex omnibus libris (17); fragm. libri primi Rhet. (62--72); de Mundo ad Alex. (87--88); fragm. Rhet. Al. et libri tertii Rhet. (99--129v°); intersunt tres epistolae Aristt. (111); Rhet. Al. (192); fragm. ex Politica (227--232); fragm. ex MM (286 v°--287). || AGI: 1441年。紙。高さ212mm×幅142mm。ff. 328. 罫線23行 (ff. 12--291v)。透かし模様; 円の中にギリシア十字 (aehnlich Br. 5575 (Rom 1456, mit Varianten Italien 1457--77, Graz 1461))。 (ff. 7--9v) Virt. (ff. 12 bis 17) Kurze Exzerpte aus EN und An. II, III. (f. 17v) Cael. I 1, 268a1--24. (ff. 18--62v) Auszüge aus EN (I ab f. 18, II ab f. 24, III ab f. 27, IV ab f. 30v, V ab f. 33, VI ab f. 34, VII ab f. 40v, VIII ab f. 42v,

IX ab f. 47v; Buch X ab f. 49v ist vollstaendig), mit einigen Lesarten und Scholien. (ff. 63--73) Auszuege aus Rhet. (I ff. 63--64v, III ab f. 64v). (f. 88rv) Mu. 7, 401b8 bis Schulss. (f. 88v) Auszuege aus Vent. (973a21) und Mir. (846b36--39 = Kap. 170, 833b21--24 und 28--30 = Kap. 48 z. T.; 838a5--10 = Kap. 95 z. T.). (ff. 100--101v) Rhet. Al., 1445b29 bis Schluss (der vorausgehende Teil des Traktats ff. 192--226v). (ff. 102--111v) Rhet. II 4, 1381b14--19; b22--1382b19; II 11, 1388b28--II 18, 1391b9; II 23, 1399b19--29; II 25, 1402b12--III 1, 1403a7. Ab f. 107 kurze Auszuege aus I -- III, auf ff. 108v -- 111: I 10 -- 11, 1369b29--1372a3. (f. 129rv) Rhet. I 1, 1354a1--26. (ff. 192--226v) Rhet. Al. bis 1445b29 (Resttext auf ff. 100--101v). (ff. 227--231v) Auszuege aus Pol. III, II, VIII, VI, VII, I. (ff. 277v--286v) Rhet. I 5, 1360b14 -- I 9, 1367b26. (f. 286v) MM I 27, 1192a37--b5。写字生; f. 323v のプラトンのテキストの下に表記あり(28.6.1441 にフィレンツェで完成)。その下に: „N. Sag(u)ndinus s(an)ctissimi d(omi)ni p(a)p(a)e secretarius“。ff. 326v--327v の Sagundinos のラテン語書簡は自筆。Marc. lat. cl. XIII, 62, ff. 107, 108 との比較によって、ギリシア語部分について同じ所見あり(Harlfinger), Wiesner, Autopsie April 1967 und September 1975. || 316 1402--1464 Biorg.: Niccolo Sagundino と同。エウボイアのカルキス出身。1430 年のテッサロニーケーの占領後トルコ軍の捕虜になる。1434--1437 年の間エウボイアの advocatus curiae となり、そこで Cyriacus Anconitanus (220) と出会う。フェラーラ フィレンツェ公会議(1438--1439 年)の際の公式通訳。1439 年からギリシアにおける教皇の秘書・書記官としてローマで出世。コンスタンティノーブルの Mehmed II の下で交渉(Verhandlungen)。1454 年からナポリ、ギリシア、そして特にヴェネチアを交互に訪問。公爵書記官(Secretario ducale)及び Chancellarius Cretae 外交官、人文主義者、作家にして翻訳家。Bessarion の友人、ナポリの Academia Pontaniana との結びつき。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 1 件)

新島龍美、「伝アリストテレス作『大道德学』翻訳補遺」、『地球社会統合科学』、査読有、第 2 3 巻第 1 号、2016、1--10

〔学会発表〕(計 件)

〔図書〕(計 1 件)

新島龍美、アリストテレス『大道德学』、『アリストテレス全集』第 1 6 巻、岩波書店、(翻訳、訳注、解説) 1--188 頁、2016 年 3 月
〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
国内外の別:

取得状況(計 件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
取得年月日:
国内外の別:

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

新島 龍美 (NIIJIMA, Tatsumi)

九州大学・大学院比較社会文化研究院・准教授

研究者番号: 50172606

(2) 研究分担者

()

研究者番号:

(3) 連携研究者

()

研究者番号:

(4) 研究協力者

()